

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372500169		
法人名	医療法人 渡辺医院		
事業所名	グループホーム いつもえがおで(未来)		
所在地	岡山県岡山市南区川張850		
自己評価作成日	令和3年 11月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3372500169-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様や職員がお互いに寄り添い生活の中でしたり、傾聴し不安を軽減することで自然に笑顔あふれる環境作りに努めている。また入居者様自身の残存能力を発揮できるような支援を心掛けており、ここで暮らすことで感染対策等徹底し、安心して楽しいと思っただけたり、幸せだと感じていただけるようなグループホーム作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園地帯に、医療法人の各施設があり、その中に事業所も位置する。広い敷地や駐車場は、コロナ禍で外出制限がかかる中、気分転換とリハビリ効果も期待できる散歩に良い環境である。生活の中での食を重要視し、食事は毎食手作りである。また、料理を作る音やコーヒーの香りなども大切にしている。100歳を迎える利用者が居た。職員は知恵をしぼり、飾りつけやプレゼントを用意し、家族も面会が難しい中、花束や色紙を用意するなど、素晴らしいお祝い会ができた。長年勤務する職員が多く、人間関係の良いやりがいのある職場となっている。家族との面会の機会が得られない状況が続いているが、窓越しでの面会や、法人のブログやゆめ通信にも事業所の日常生活を紹介するなど、の努力を続けている。家族が看取りを希望される場合が多く、信頼関係も十分だと感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を明確化し、事務所内の壁に掲示し全職員が共有できるようにしている。	グループホームの理念の中核である「尊厳保持」を踏まえ、法人全体の年間目標「いつも笑顔で」や月間目標「一人一人が責任を持って感染予防」の実践に努めている。新人職員にもしっかりと説明し、理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でグループホームの行事や美容院や買い物などの外出困難となりで地域の方と交流や法人内の祭りなどの行事等中止となった。もう一度互いに交流を深められるよう今後努力が必要。	全ての訪問、外出が中止となっていたが、最近やっと訪問理容が再開された。風通しの良い場所で行われ、入居者もすっきりした気分を味わうことができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体が、地域への貢献に配慮して、介護等に関する相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に行っている。コロナ禍の中で、参加者の会議参加が困難な時は、参加者への運営報告や質疑交換を文章を通じて行うことあった。	会議開催は難しいが、現状報告等の議事録を作成し参加者に配布している。それに対する意見をもらい、返事を返していくというやり取りを通じ、運営推進会議の取り組みが継続されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で地域包括センター職員、地域の民生委員、公民館職員と連携をとりながら取り組んでいる。	運営推進会議の書類のやりとりの場で、地域包括支援センターや公民館との連携は継続されており、市からの情報ももらっている。法改正等に関しては、市に直接電話で相談する場面も多く、ズームによる研修会にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を定期的で開催し、研修等に参加し知識を習得し、職員の意識向上を図り、啓発を行っている。	身体拘束に関する研修は、グループホームでも毎年行われている。現在拘束の事例は無いが、スピーチロックに対する取り組みを重視し、現場での状況に応じ職員の気持ちも配慮しながら、指導を行うこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を定期的に行い・研修等に参加し知識を習得し、職員の意識向上を図り、啓発を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、職員・ご家族様に対して、活用できるよう伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	適時、同意書を頂くことにしている。またご家族様に対しては十分説明をし理解・納得できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームでは意見箱の設置をしているが、御家族様への電話でのご報告時又は来られた時に積極的にご意見をお聞きし随時運営に生かしている。	希望の家族には、部屋の窓越しでの面会を行っている。換気のために少し窓も開けているので、互いの声を聴く事は可能である。家族には毎月支払時には来所してもらっているため、その折にしっかり状況報告をし要望を尋ねている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内での会議や提案書・要望書の受け入れや法人運営調整会議の参加等で機会を作っている。	集まる事が難しい中、随時現場で話し合い、ノートを使って周知している。管理者が1対1で職員の話をお聴きする機会も設けられている。職務内容の改善についての提議があり、現在検討中である。	会議開催ができない分、よりしっかりとした記録を残して欲しい。また、施設内での行事に関する記録も残し、反省等の職員意見も記載して、次に繋がることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力給評価シート(上司・部下相互評価)を取り入れたり、研修をおこなったり、年2回に表彰する機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加・自己啓発の重要性、認知症についての知識の獲得を常日頃より推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍において交流は非常に難しいが内部研修やオンラインの外部研修の機会を設け、日常的に学ぶ事を推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人様の意見を傾聴し、周囲の関係者から現状などお聞きし、ケアプランに意見を反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族等の意見を傾聴し、御要望をお聞きしケアプランに意見を反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様より十分に話を伺い第3者の意見もとりいれながら適切なサービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にはグループホームが生活の場であることを共有し、信頼関係を大切にし声掛等も工夫している。尊敬の念を持ち教えていただく姿勢を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からの一方的なケアだけでなくグループホームを通じてご家族様とご本人様が築かれている絆が増すよう、ご家族に働きかけ共に支えあう姿勢をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において馴染みの方との交流は非常に難しくなっている。電話などの声を聴く交流など最小限ではあるが途切れない様に努めている。	家族との電話が主となるが、親戚の音沙汰に安心される場合もある。家族の了承を得て、昔の職場の人と電話で話し、とても喜ばれた経緯もあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々同士のコミュニケーションは少し減っている。感染に注意しながらコミュニケーションが円滑にいくよう、時に職員が会話の場に寄り添い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な退去ケースがあるが、相談等あれば、いつでもお聞きますのでと退去時にお伝えするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の方々のペースに合わせ、ゆったりとした時間が保てるように工夫している。またご本人様およびご家族様の意見を聞き尊重する姿勢をとっている。	職員は、1対1での対応を念頭に置いている。自分から思いを伝えられない利用者も、同じ時間を共有する事で、その時間が楽しかったと思えるよう関わっている。また表情からも思いを読み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様あるいは、ご家族様より情報提供を受けそれらを職員が共有できるよう取りまとめ、コミュニケーションの中から新しい情報も取り入れられるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日のご本人様の状態等を観察し、ご本人様の意思を尊重しながら興味のあることをしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスの場で、意見交換および情報交換し、ご本人様にとってなにが今最優先されるか話し合いプランを作成。4ヶ月に1度プランの見直しを行っている。	4カ月毎に、家族・担当職員・計画作成者・管理者が顔を合わせ、カンファレンスを行っている。家族には現在の状況を伝えて心配事や希望などを尋ね、次の介護計画を提案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録および申し送りノート等で情報共有と意見交換をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	適時、ご本人様及びご家族様の意向を受け入れ、必要なサービスをプランに生かしたり関係各機関と連絡を取り合うことに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	適時、ご本人様及びご家族様の意向を受け入れ、関係各機関と連絡を取り合うことに務めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診および受診はもちろんのこと他科受診の付き添いも支援している。	かかりつけ医が頻りに施設を訪れてくれるので、いつでも何でも相談できる。何かあれば直ぐに他科受診の判断や、検査の指示も出してもらえるので、家族にも安心をもたらしている。訪問看護、訪問歯科診療もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人様の体の様子を観察し異常があれば訪問看護と連絡をとりあい相談および助言や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様をはじめ入院先のMSW・看護師等に連絡をしたり訪問してご本人様の早期退院と安心して帰れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医をはじめ職員より入居時にターミナルケアについて説明をし、ご家族様の意向を伺い同意書をいただいている。	家族の希望で看取りを行うことも多い。職員の負担や不安を軽減するため、きっちりとしたマニュアルを作成している。家族と医師、介護者がコミュニケーションを取り、より良い看取りができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の施設内研修をはじめ研修資料、急変や事故の対応について、各職員は実践力を養うため参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練を工夫して実施し対応についてはグループホーム内に掲示し職員間で共有している。また災害時における食料品をはじめエマージェンシーキットなどを倉庫に備蓄し災害時に備えている。	隣接するグループホームと合同で年2回火災想定、法人全体で津波想定での訓練を1回行っている。ここ数回は全員避難で集まる事ができないため、机上でのシミュレーション訓練、点検となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持ち、声掛けを行っている。決して乱暴な言葉使いにならないように気をつけている。接遇の研修も法人内で行い参加している。	一人ひとりの状態に合わせ、何をするにもできるだけ丁寧な対応を心掛けている。申し送りは利用者から離れた場所で行い、名前に敏感に反応する利用者が、無用な混乱を招くことのないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思を尊重し必ずご本人様に聞いてみる。そして意思表示が困難な場合でも選択肢を設け自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の意向や希望が日々の生活の中で少しでも生かされるよう支援していく姿勢を保っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好む服を第一に考え、季節や天候に合った身だしなみができるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が食べたいものを聞いて献立に反映し、食事の下準備に参加していただき食事の楽しみを共有している。また行事(誕生日、敬老の日、正月)等に即した食事内容に努めている。	手作りの食事は、入居者の楽しみの一つとなっている。食べやすいよう調理方法を考慮したり、形状を工夫したりして、食が進むよう配慮している。行事では握りずしなどの注文を取る事もあり、変化を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	訪問看護師や管理栄養士とも相談している。入居者様の摂食状況を観察しながら、内容等も個別援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科と連携し、指導を受け、毎食後には声掛けおよび誘導を行い全介助および一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表(排尿・排便)を記入して、必要な入居者様に対しては声掛・誘導等を行っている。	本人の安心を優先し、入居前から使用していたポータブルトイレを使用する人、夜間にも起きてトイレに行く人、おしめ対応の人等々、職員間で話し合いながらより良い方法を探っている。排便確認は本人の様子を見ながら、できる範囲で行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をもとに、食事内容や水分摂取など検討し実行している。また主治医や訪問看護師からも助言等を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、ご本人様の希望にあわせた入浴支援に努めている。	毎日入浴を設定しているので、いつでも入浴してもらえる。毎日入りたいとか、夜間に入りたいとかの要望に添うこともある。二人介助で湯船に浸かってもらっている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室などの環境づくりのためご家族様に情報提供及び助言を行ったり、ご本人様にあわせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員各自が入居者様の服用される薬の内容等を把握するよう努めている。またご本人様の体調の変化などを常日頃観察し主治医と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の衣食住に関わる生活の中で笑顔になれる楽しみを支援し、各自の嗜好に合わせたクラフト作り等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において外出は困難になっている。天候の良い日に個別にて庭の散策等できることを行った。	敷地内の東屋の横に桜の木があり、春には2~3人ずつのグループでお花見をして喜んでもらえた。敷地内の散歩で外気に触れる機会を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍において外出や買い物などは困難になっている。感染状況が改善し外出が可能になればご本人様の希望に添うように努めて行きたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いてもらったり、電話の取次ぎなど、入居者様の意向に添った支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口にも種類の違う飾りなど付け、照明もトイレ前のダウンライトを設置しているなど工夫している。	コロナ感染予防対策として、リビングの座席を対面にせず、一方向に向いて座ってもらっている。暖房をしながら窓を開けて換気には十分な配慮をし、加湿器、空気清浄機も常時稼働している。壁面は入居者と共に作った飾りで演出し、季節を感じてもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーや食堂から少し離れたところに個別に関われる空間が用意してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたタンス・仏壇を持参していただいたり、また古い写真アルバムなどの思い出のある品々を持ってきている。	以前のように色々な物を持ち込む人は減っているが、昔使っていた筆筒や、使い慣れた毛布を持ち込む利用者はいらる。転倒防止に配慮し、手すりの代わりに椅子や家具を置いたり、ベッドの位置を変更したりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリの為、家事に参加しやすいようにアイランド型キッチンを用意しており入居者様が自然に参加しやすいように環境に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372500169		
法人名	医療法人 渡辺医院		
事業所名	グループホーム いつもえがおで(希望)		
所在地	岡山県岡山市南区川張850		
自己評価作成日	令和3年 11月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3372500169-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様や職員がお互いに寄り添い生活の中で支援したり、傾聴し不安を軽減することで自然に笑顔あふれる環境作りに努めている。また入居者様自身の残存能力を発揮できるような支援を心掛けており、ここで暮らすことで感染対策等も徹底し、安心して楽しいと思っただけたり、幸せだと感じただけりようなグループホーム作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を明確化し、事務所内の壁に掲示し全職員が共有できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でグループホームの行事や美容院や買い物などの外出が困難となり地域の方と交流や法人内の祭りなどの行事等中止となった。もう一度互いに交流を深められるよう今後努力が必要。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体が、地域への貢献に配慮して、介護等に関する相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に行っている。コロナ禍の中で、参加者の会議参加が困難な時は、参加者への運営報告や質疑交換を文章を通じて行うこともあった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で地域包括センター職員、地域の民生委員、公民館職員と連携をとりながら取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を定期的に行い、研修等に参加し知識を習得し、職員の意識向上を図り、啓発を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を定期的に行い研修等に参加し知識を習得し、職員の意識向上を図り、啓発を行っている。		

令和3年 いつもえがおで 希望ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、職員・家族に対して、活用できるように伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	適時、同意書を頂くことにしている。またご家族様に対しては十分説明をし理解・納得できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームでは意見箱の設置をしているが、御家族様への電話でのご報告時又は、来られた時に積極的にご意見をお聞きし随時運営に生かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内での会議や提案書・要望書の受入れや法人運営調整会議の参加等で機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力給評価シート(上司・部下相互評価)を取り入れたり、研修をおこなったり、年2回に表彰する機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加・自己啓発の重要性、認知症についての知識の獲得を常日頃より推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍において交流は非常に難しいが内部研修やオンラインの外部研修の機会を設け、日常的に学ぶ事を推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人様の意見を傾聴し、周囲の関係者から現状などお聞きし、ケアプランに意見を反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族等の意見を傾聴し、御要望をお聞きしケアプランに意見を反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様より十分に話しを伺い適切なサービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にはグループホームが生活の場であることを共有し、信頼関係を大切にし声掛等も工夫している。尊敬の念を持ち教えていただく姿勢を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からの一方的なケアだけでなくグループホームを通じてご家族とご本人様が築かれている絆が増すよう、ご家族に働きかけ共に支えあう姿勢をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において馴染みの方との交流は非常に難しくなっている。電話などの声を聴く交流など最小限ではあるが途切れない様に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々同士のコミュニケーションは少し減っている。しかし、感染に注意しながらコミュニケーションが円滑にいくよう、時に職員が会話の場に寄り添い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な退去ケースがあるが、相談等あれば、いつでもお聞きますのでと退去時にお伝えするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のペースに合わせ、ゆったりとした時間が保てるように工夫している。またご本人様およびご家族様の意見を聞き尊重する姿勢をとっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様あるいは、ご家族様より情報提供を受けそれらを職員が共有できるよう取りまとめ、コミュニケーションの中から新しい情報も取り入れられるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日のご本人様の状態等を観察し、ご本人様の意思を尊重しながら興味のあることをしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスの場で、意見交換および情報交換し、ご本人様にとってなにが今最優先されるか話し合いプランを作成。4ヶ月に1度プランの見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録および申し送りノート等で情報共有と意見交換をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	適時、ご本人様及びご家族様の意向を受け入れ、必要なサービスをプランに生かしたり関係各機関と連絡を取り合うことに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	適時、ご本人様及びご家族様の意向を受け入れ、関係各機関と連絡を取り合うことに務めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診および受診はもちろんのこと他科受診の付き添いも支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人様の体の様子を観察し異常があれば訪問看護と連絡をとりあい相談および助言や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様をはじめ入院先のMSW・看護師等に連絡をしたり訪問して本人の早期退院と安心して帰れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医をはじめ職員より入居時にターミナルケアについて説明をし、ご家族様の意向を伺い同意書をいただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の施設内研修をはじめ研修資料急変や事故の対応について、各職員は実践力を養う様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練を工夫して実施し対応についてはグループホーム内に掲示し職員間で共有している。また災害時における食料品をはじめエマージェンシーキットなどを倉庫に備蓄し災害時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持ち、声掛を行っている。決して乱暴な言葉使いにならないように気をつけている。接遇の研修も法人内で行い参加している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思を尊重し必ずご本人様に聞いてみる。そして意思表示が困難な場合でも選択肢を設け自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の意向や希望が日々の生活の中で少しでも生かされるよう支援していく姿勢を保っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好む服を第一に考え、季節や天候に合った身だしなみができるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が食べたいものを聞いて献立に反映し、食事の下準備に参加していただき食事の楽しみを共有している。また行事(誕生日、敬老の日、正月)等に即した食事内容に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	訪問看護師や管理栄養士とも相談している。入居者様の摂食状況を観察しながら、内容等も個別援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科と連携し、指導を受け、毎食後には声掛および誘導を行い全介助や一部介助又、見守りにて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表(排尿・排便)を記入して、必要な入居者様に対しては声掛・誘導等を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をもとに、食事内容や水分摂取など検討し実行している。また主治医や訪問看護師からも助言等を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、ご本人様の希望にあわせた入浴支援に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室などの環境づくりのためご家族様に情報提供及び助言を行ったり、ご本人様にあわせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員各自が入居者様の服用される薬の内容等を把握するよう努めている。またご本人様の体調の変化などを常日頃観察し主治医と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の衣食住に関わる生活の中で笑顔になれる楽しみを支援し、各自の嗜好に合わせたクラブ作り等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において外出は困難になっている。天候の良い日に個別にて庭の散歩等できることを行った。		

令和3年 いつもえがおで 希望ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍において外出や買い物などは困難になっている。感染状況が改善し外出が可能になればご本人様の希望に添うように努めて行きたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いてもらったり、電話の取次ぎなど、入居者様の意向に添った支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口にも種類の違う飾りなど付け、照明もトイレ前のダウンライトを設置しているなど工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畑に面する食事テーブルやスロープ横の談話コーナーなどの個別に過ごせる空間が用意してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたタンスや衣類を持参していただいたり、また古い写真アルバムなどの思い出のある品々を持ってきている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリの為、家事に参加しやすいようにアイランド型キッチンを用意しており入居者様が自然に参加しやすいように環境に配慮している。		